

会 議 録

会 議 名	第 3 1 期小金井市公民館運営審議会第 9 回審議会		
事 務 局	公民館		
開 催 日 時	平成 2 4 年 7 月 2 7 日 (金) 午前 9 時半から 1 1 時		
開 催 場 所	市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室		
出 席 委 員	佐々木委員長 藤井副委員長 小島委員 山田委員 亙理委員 宮澤委員 大津委員 神島委員		
欠 席 委 員	佐野委員 立川委員		
事 務 局 員	大関公民館長 山崎庶務係長 渡辺事業係長 田中主査 松本主査 松本主査 松下主事 若藤主査		
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由			
会 議 次 第	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 都公連委員部会運営委員会、研修会について</p> <p>(2) 公民館事業の報告について</p> <p>(3) その他</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 三者合同会議の議題の検討について</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 町田市生涯学習センター視察について</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 公民館事業の計画について</p> <p>(2) 青少年の科学の祭典について</p> <p>3 その他</p> <p>(1) 第 2 2 期企画実行委員の新規委嘱について (報告事項追加)</p> <p>4 配付資料</p> <p>(1) 公民館事業の報告 (当日追加配付 1 枚)</p> <p>(2) 公民館事業の計画 (当日追加配付 1 枚)</p> <p>(3) 都公連委員部会 5 月定例会記録</p> <p>(4) 科学の祭典資料 (当日追加配付 3 枚、チラシ 1 枚)</p> <p>(5) トリターマ 6 月号</p> <p>(6) 教育だより</p> <p>(7) 月刊こうみんかん 7 月号・8 月号</p> <p>(8) 都公連第 1 回研修会記録</p> <p>(9) 平成 2 3 年度事業のまとめ</p>		

会 議 結 果

佐々木委員長 それでは、定刻ですので、第9回の審議会を始めさせていただきたいと思えます。

では、大関館長からお願いいたします。

大関公民館館長 こんにちは。前回の審議会から2カ月たちまして、久しぶりの審議会ですが、毎日大変暑い気候となってまいりましたので、皆さんどうかお体には十分お気をつけてお過ごしいただきたいと思えます。本日は、佐野委員、立川委員から欠席のご連絡をいただいております。

それでは、まず配付資料の確認をお願いいたします。

まず、事前に配付させていただきました資料として、公民館事業の報告、公民館事業の計画、都公連委員部会5月定例会記録、小島委員からご提供いただいた科学の祭典の資料、トリターマ6月号、教育だより、月刊こうみんかん7月号でございます。また、本日配付しております資料は、先日の研修会にご参加いただいた立川委員からの、都公連第1回研修会の記録と配付資料、公民館事業の報告と計画の追加資料、山田委員にお送りいただきました科学の祭典に関する書類、月刊こうみんかん8月号、平成23年度事業のまとめでございます。

配付資料は以上です。ご確認をお願いいたします。ないようでしたら、後で事務局に言っていただければと思えます。

それでは、委員長、お願いします。

佐々木委員長 科学の祭典の前は、今日が最後ですね。それでは、今日詰めなければならぬですね。申しわけないですが、私はこの後、引き続き次の会議があるものですから、定時に終了するよう効率的に進めさせていただきたいと思えます。

1 報告事項

(1) 都公連委員部会運営委員会、研修会について

佐々木委員長 報告事項ですが、都公連委員部会運営委員会、研修会についてということですが、これは立川委員がおられないので、資料をお読みいただきたいと思えます。今日は追加資料もありますし、中のほうにも入ってございますので参考にさせていただきまして、公民館と公民館運営審議会の意義を考えるという内容でございますので、読んでいただいて、興味があればまた次回、立川委員のほうにお聞きいただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

(2) 公民館事業の報告について

佐々木委員長 それでは、次に2として公民館事業の報告についてお願いします。

渡辺事業係長 事前にお配りした公民館事業の報告と、それから、追加ということで、貫井南分館の事業報告をお配りしておりますので、ご確認いただければと思えます。

1つだけ、ご説明させていただきたいんですけれども、子どもの人権講座です。2ページ目に資料を用意いたしました、7月15日で7回の講座が終わったんですけれども、応募が129人と非常に多くて、実際にはもう少し多かったんですけれども、保育の関係でお断りしなくてはいけないことになってしまったんですが、今までにない応募人数となりました。最終回に皆さんでそのことについて話し合いをしたんですけれ

ども、原因としては、今年ちょうど子供に関する制度が大きく変わるといこととか、あるいは、市民協働が進んでサークルのネットワークができたということもあるんですが、それに加えて、今回は初めて参加するという方が非常に多くて、自分でチラシを見てきましたとか、今までになかった動きなので、新しい動きかなと思っております。以上です。

佐々木委員長

わかりました。いかがでしょうか。報告についてご質問ないでしょうか。

小島委員

じゃあ、簡単に。

佐々木委員長

どうぞ。

小島委員

私は、子どもの人権講座は全部は出られないですけど、ほぼ毎回参加させていただいて、今回も半分ぐらい出たんです。今、渡辺係長のほうからおっしゃられたように、非常に参加者が多く、新しい人が多かったのと、延べ参加者339人というのは、やっぱりすごいな、ニーズがあるなというのと、1つ、6月28日の木曜日に内閣府の方をお呼びしたんです。これは、事務局を絶対褒めなければいけないのは、すごくご多忙な中の講師依頼にご承諾ただけて、これまでに決まっていることをきちんと、大変綿密な資料で説明していただけたことです。こんな大変なときに来てくださって、きつい質問もいっぱいあったんですが、ほんとに塚田さんという講師の方には個人的にお礼を申し上げたいぐらいで、非常に内容がよかったです。あともう一つ、東分館の東センターまつりも、事務局を褒めたいと思うんですけど、延べ参加人数990人と、ほんとに大盛況で、私が感心したのは地域の商店会との密接な連携もございました、おいしく焼きそばと焼き鳥を食べさせていただきました。

それと、展示も結構充実していたのと、こきんちゃんの着ぐるみを着てゆりーとダンスというので、ちなみに、中に入っていたのはここにいらっしゃる松下さんで、暑い中ご苦労さまでございました。それで、沖縄の舞踊なんかも私はアンコールと叫んでしまったくらい素敵で、地域を巻き込んで、近くに団地もあるんですけど、東センターまつりに関しては、ほんとにすごく一委員としても評価したいと思いますので、今後ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

佐々木委員長

ありがとうございました。ほかのセンターまつりもかなり盛況なんでしょうね。いかがでしょうか。どうぞ。

亘理委員

センターまつりは全部拝見させていただいたんですけども、懐かしい感じがしました。どなたかがおっしゃっていたんですが、熱気ある人間くささがあるというような言葉があるんですけど、ほんとにそういう感じがして、今おっしゃったようにその地域を巻き込んで熱心に展示等もなさっていて、いいなと思って帰ってきました。

佐々木委員長

地域の中に位置づいているというのは非常にいいことですよ。センターまつり自身の意味というのでも発してきているのかなと思いますけど、先ほどの人権講座も子ども・子育て新システムは、今話題になっている動きですよ。

小島委員

そうなんです。まだ動いています。

藤井副委員長

質問いいですか。

佐々木委員長

どうぞ。

藤井副委員長

東センターまつりなんですけれども、地域を巻き込むとか、商店会を巻き込んだというプロセスみたいなものがもしあれば教えてほしいんで

すけど、どちらからあったわけですか。

松下主事 東センターなんですけど、地域を巻き込むということでは去年から始めているんですが、市民の方にポスティング、チラシを職員と企画実行委員で、延べでいうと1,000枚以上は配っていると思うんですが、お配りしていることと、商店街のほうは毎年参加していただいているんですが、新小金井商店会さんに毎年協力をしていただいて、焼きそばですとかつくって販売をしてもらっています。

藤井副委員長 現行のセンターまつりでは商店会とタイアップというのはここだけなんです。ほかのところはされていますか。

小島委員 東センターだけだと思います。

大関公民館長 他ではやっていないですね。

藤井副委員長 ないですね。センターまつり自身が、各センターの自主運営になっているわけですよね。公民館はある意味ではノータッチ的な形になっているんですけども、ある公民館なんかは自主グループの高齢化で、実際にいわゆる力仕事をされる方が少なくなってきたり、公民館のスタッフなり企画実行委員が手伝わなくちゃならない状況になっているのに、このところだけは新しい活力みたいなものがセンターに入ってきて成功されているので、今後は1個の方法として、こういうシステムというかを各センターのほうでできるものなら取り入れたほうが、事務局の若返りだとか、新しい顔ぶれがという形でいいんじゃないかと私は思うんですけども、もしできるようなら各分館とも検討ないしは試行錯誤されたほうがと思います。

佐々木委員長 そうですね。せっかくこうやって成功しているわけなので、そういった成功事例はみんなで共有して参考にできるものは参考にさせていただくと。お互い東センターだけでなくほかのセンターもいろいろあると思いますので、そういったことはどんどん前向きにやっていったほうがいいだろうと思います。

(3) その他

ア 三者合同会議の議題の検討について

佐々木委員長 ほかに何かないでしょうか。

藤井副委員長 いいですか。

佐々木委員長 どうぞ。

藤井副委員長 三者合同会議の件で全員に確認しておきたいんですけども、実際三者合同会議の会じゃなかったんですけども、6月8日に科学の祭典打ち合わせ会が急遽開催になりまして、科学の祭典自身は、ここに山田委員がつくっていただいた申込書で申し込みオーケーという形で前に進んでおります。

このときの会合で議題外として、1個の案が出てきたわけです。といいますのは、大分前になるんですけども、5月24日にここで三者懇談会をやりました。倉持先生の講義とこの内容で各3つのグループに分かれていろんなことを検討したわけです。会合を今後どのような形で11月の三者合同会議につなげるかということで、図書館の方、社会教育委員の方、それから、公運審は私ですけども、出席して話し合ったわけです。

現在、事務局は図書館の松尾先生が中心になさっているんですけど

も、松尾先生からこれで支援センターについての基礎的な内容が、5月24日の会議で大体決まったんじゃないかと。これで、今後11月の三者合同会議の中には、たたき台をつくってみたらどうかというご意見が出てきたわけです。実際、具体的なものというのが多分各委員の頭の中ではばらばらになっているので、そういうことを統一して、いいか悪いかは別にして、こういうものがたたき台ですよということを出したいんだがどうだろうかという内容だったんですけども、これは、ある意味では一歩前進という形になるので、三者とも了解しました。

ここで問題になるのは、じゃあ、だれがたたき台をつくるのという形になるわけです。この中で松尾先生からのご提案が、三者の中で2名ないし3名ぐらい検討委員会というものをつくったらどうだろうか。ある意味、ボランティアになるので時間のある方、ない方、いろんなことがあるので非常に難しいかもしれないけれども、一応支援センターというものに向かって前進しているので、これぐらいやって11月の三者合同会議のたたき台を作成したいということになったわけです。

それで、基本的には社会教育委員ないし図書館では、多分委員長ないし副委員長ぐらいの方が出てみえるんじゃないかという予想なんですけれども、さて、公運審はどうするかという問題が1個出てきたわけです。今日、2名ほど欠席なんですけれども、できればここで三者合同会議に向けて生涯学習支援センター検討委員会の中の委員の方を2名か3名ぐらい立候補、私がやるよとか、推薦だとかいう、どなたかという形にしたいと思うんですが。会合なんですけれども、大体イメージとしては月1回しようじゃないかと。その第1回目が8月10日金曜日の午後2時から、この建物の6階の602会議室に集まって、たたき台なるものを考えてみませんかというところまでが進んでいるわけです。

これは、なかなか今後何をやるのかわからないし、非常に難しい問題なので、1個1個できることからやっていきませんかということじゃないかと思うんですけど、委員長はなかなかその辺の時間は難しいですか。

8月10日はとりあえず参加できないんです。

ですか。

できないので、それ以降については日程が合えば参加したいとは思いますが。

わかりました。基本的には私ができたら、検討委員会が3回になるか、4回になるかわからないですけども、午前以外の午後から夕方まで時間がありますので参加しようかと思っていますが、ほかの委員の方々に支援センター、いいからやってみようという方でもいいし、小金井には難しいんじゃないかとか、公民館活動の中での距離感なり、考え方があるので、もう一遍みんな、検討委員会の中で議論したほうがいいんじゃないかと、いろんなご意見があろうとは思いますが、この場で決めて、私と一緒に活動をしていただければと思うんです。8月10日、まず14時に時間があいているかどうかの問題もあるとは思いますが。

その前に質問なんですけど、一言で言うと、何のたたき台と考えたらいいのですか。

一言で言うと、生涯学習支援センターのたたき台。こういう言葉だけが今、先走って一体そこで何をやるのとか、どういうことをやったらいい

佐々木委員長
藤井副委員長
佐々木委員長

藤井副委員長

小島委員

藤井副委員長

いのというのが、生涯学習支援センターという言葉が公運審の会議の中で出てきて2年ぐらいになりますよね。多分、皆さんの頭の中にも一体何だとか、僕自身も確固たるものもないし、それから、三者で会議とかミーティングをやっても遅々として前に進まずということで、将来空中分解になるのか、それとも支援センターができるかというのは、今のところ、正直言ってみんなわからないと思うんです。

三者会議をやって、できるものならやってみようという形もあるだろうし、ここまで検討したけれども、三者でやるのは難しいんじゃないという結論になるかもわからないし、この辺がそこのところでは予断を許さぬ状態じゃないかと思っているんですけど。

この場で難しかったら後日、僕のところに電話なり、公民館の山崎さんのところでもいいですが、連絡してもらえれば、結果的に僕のところに来ますので、皆様方の中で考えをまとめておいてもらいたいと思います。

それともう1点よろしいですか。現在、多分どの社会教育委員、図書館協議会や僕ら委員でも任期が終わってしまうと、この三者の合同会議の議題の件については、引き継ぎがないわけですね。ですので、三者合同会議の中身だけは、これからなる委員の方々に必ず引き継ぎとして引き継いでいこうという形になったわけです。これは、ある意味事務的には一歩前進かなと思うんですけども、僕らもたまたま前回の公運審のメンバーが半分ぐらいいたので、自然発生的に引き継ぎはできているんですけども、次期の委員の方にも、これは各三者とも引き継ぎ事項にしましょうという形で、6月8日の会議が済んだわけです。すみません。

小島委員 振られたので、意見を言わせていただきます。

趣旨はよくわかりました。三者の合同会議はいつも一からまた始める印象が強かったので、ボランティアにせよ、検討委員会を少人数で立ち上げるとするのは、非常に私はいいことだと思います。いつもまた一から、また一からという感じで出席していましたので。名前で振られたんですが、私は引き受けるにやぶさかではないんですが、物理的に出席が可能かどうかということがひっかかかっていて、私の中で即答じゃなくて検討させていただければと思います。

それで、これに少し関連することで1つ、限られた時間なのにすみません。

佐々木委員長 いえいえ。

小島委員 先月だったと思うんですが、町田市生涯学習センターに公民館枠を2つとって、どなたが行かれたのかなと。

佐々木委員長 山田委員ですね。

小島委員 そうなんですか。もし簡単に説明をしていただければと思うんです。

山田委員 これが終わってから。今の件が終わってからにします。

藤井副委員長 僕の件はこれでもう、一応終わったように僕は理解しているんですが。後で連絡いただければと思います。

佐々木委員長 ほかに今、小島委員、委員長と振られましたけど、ほかの方でも参加したい、してもいいという方がおられましたら、いかがでしょうか。11月までだと2回か、3回ぐらいですか。

藤井副委員長 そうですね。

小島委員
藤井副委員長

8、9、10月。

現在、図書館のほうで11月の三者合同会議の日程をまとめているようなので、連絡がつき次第、何日にやりますよということは来るんですけども、これについてのたたき台をつくろうということです。

佐々木委員長

後でおられたら、私もできるだけ参加するようにはしたいと思いますけれども、藤井委員中心にやっていただいて心苦しいんですけども、皆様ぜひ協力していただければと思っております。

これについて、またあれですよ、我々の意見も反映させないと、社会教育委員の方などの意見はかなり強いように私の印象として思っていますので、何のために必要なのかという根本的なことも話したほうがいいのかなと思っていますので、会議の中でも皆さんのほうでご意見があったら、どんどん言っていただければと思います。また会議について、結果を報告しながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

イ 町田市生涯学習センター視察について

佐々木委員長

それでは、山田委員、この間メールをいただきまして、ありがとうございました。

山田委員

7月18日に、社会教育委員の会議が見学に行ったのに同乗して行きました。公運審からは私と、それから公民館は館長が行きました。図書館のほうは図書館協議会の委員の方、名前を私は覚えていないのでわからないですけど、1人行かれました。

町田市なんですけれども、町田市というのは人口が42万人で、面積は72平方キロ、ちょっと聞き間違いとかがあるかもしれないんですけど、それから、市の木がケヤキ、市の鳥がカワセミということで、小金井とよく似ているという感じでした。

それから、生涯学習センターなんですけれども、町田センタービルというのがありまして、駅の近くだと思うんですけども、その6階から8階が町田市の生涯学習センター、それから、1階から5階は109の店舗が入っているという建物です。この建物には公民館が2002年に移転してきたそうです。それで、今年2012年の4月から町田市生涯学習センターとなったということです。

それから、その職員なんですけれども、公民館の時代は公民館長以下10名だったということです。それから、2012年のセンター化したときからは、センター長以下15名となっています。センター長は熊田さんとのことでしたから、前の公民館長だと思います。管理はシルバー人材センターで行っている。

それから、あと費用の問題ですけど、有料化というのはもう公民館の時代にやっけていまして、2008年10月に有料化をしたということです。そのときに有料化したために利用率が落ちたと言っていました。多分6%ぐらい落ちています。86%から80%と、その時点では減っていました。

それから、生涯学習センターというのがどんなものかということ、生涯学習センターをつくった目的は、一番大きいのは公民館と市民大学を統合するとのことです。市民大学というのがあったんだそうです。この市民大学というのは、小金井の公民館でも何かあったかと思うのですが。

大関公民館長
山田委員

あります。

ありますよね、大学講座が。それとはちょっと違って、もっと専門的なことをやると言っていました。習ったことをどういうふうに展開していくかということもやっていたと思います。それで、ただ、市民大学のうち、スポーツ関係は生涯学習センターではなくて、市長部局へ移管したということです。

組織は管理係と事業係があるということで、さっき言った人材センターが管理しているというのは、管理係の下でやっているんだと思います。それで、公民館というのはまちだ中央公民館というのがあるんですけども、公民館という組織は組織としてはありませんけれども、施設としてはまちだ中央公民館という名前を使って、そういう施設があるということです。

それから、従来の公運審にかわるものとして、生涯学習センター機能検討委員会ができましたということです。公民館条例のほうにあった公運審は削除しましたということです。

都公連との関係ですけれども、都公連には継続して加入しているということです。あと、組織として強化したことは、生涯学習関係の情報収集と提供、学習相談などの機能を強化した。その他人材発掘とか育成なども行うということです。

それで、市民の評価は情報の提供、相談を受けやすくなったということ、言葉がよく聞き取れなかったんですけども、社会教育関係の活動というか、社会教育の範疇が薄まってしまったのではないかということです。生涯学習ですから学校教育も入るわけですね。という感想があったと言っていました。そんなところですね。

それから、ちょっとこれ、そこの方からまた聞きなんですけれども、立川のほうなんですけれども、生涯学習課と公民館と一緒にって生涯学習推進センターになったというふうに聞きました。

資料は何点かもらったんですけども、さっき出てきた三者懇の生涯学習支援センターの参考になるものとしては、生涯学習支援センターとは、何をやるのかというのがちょっと疑問なんですけれども。

それで、町田市の生涯学習センターの事業はどんなことをやっているのかということが分かる資料をもらってきました。だから、こういうのが、大きな項目でいうと、市民と学習機会を結ぶための学習相談と情報提供、より充実した市民生活を送るための学習機会の提供、よりよい社会をつくるための市民活動支援。それから、これは生涯学習より学校支援のほうが合っているんですけども、学校教育を支える地域教育力の向上。それから、学習環境の整備、生涯学習センターの効果的・効率的な運用というのがあって、その下に細かい項目があるんですけども、さっき言った三者懇の生涯学習支援センターは何をやるのかというものの参考にはなるかなと思います。

以上です。

佐々木委員長
山田委員

ありがとうございました。

それで、最初、私はものすごく組織的に変わったのかなと思って視察に行ったんですけども、説明を聴いた後の感想としては、それほど変わっていないなという気がしました。ただ2つを統合して、ちょっと機能を強化したということです。

小島委員 ちよつとよろしいですか。

佐々木委員長 はい、どうぞ。

小島委員 簡単な補足。3月まで町田の公運審だった方との個人的なつながりで聞きました。そして、先ほど有料化の話が出たのですが、具体的にいいますと、一番小さい部屋で500円なんだそうです。10人で参加する場合、1人50円ずつ徴収しまして使っているということと、公民館主催事業は無料だそうです。それから、公運審がなくなって検討委員会になったんですけれども、彼の言っていることに間違いがなければ、館長が委員長を兼ねているというふうに聞きました。

それと、さっきさほど変わらないと山田委員がおっしゃったのですが、市長部局なのか教育委員会なのかと彼に聞きましたら、教育委員会のままですと。

山田委員 そうです。教育委員会です。

小島委員 ええ。それは当然、公民館が、包含関係というか、中に公民館がありますので、それで教育委員会系列で生涯学習センターが建ったということです。

それと、ちよつと補足なのですが、去年の3.11のときに、ここの建物、駅近なので、帰宅困難者の受け入れをやったんです。ところが、行った人はご存じと思うんですけれども、町田のこのビルは5階までが東急系の店舗が入っているんですよ。それで、電気がとまっていますので、当然この非常階段に出るのに、1階から5階の民間の責任者の方に話を通さなきゃいけなくて、頑張り屋の館長さんがかなり交渉しまして、その場の臨機応変な対応でオーケーをもらって、109ですか。その店舗の中を歩いて非常階段に出て6階に帰宅困難者を、当時は公民館で受け入れたということで、なぜこの話をしたかという、そういう有事のときに複合施設とか雑居ビルの場合は、日頃から関係をよくつくっておかないとそういうことができないんだなというのが、私がまず1つ感想に持ったんです。

今度、貫井北町センターも、一応、複合施設なので、そこはもう公民館の緑分館も東分館も図書館と一緒になんですけれども、何しろそういう複合的なところは日頃から関係づくりをしておくことが非常に今後、大事になってくるのではないかということです。

それともう一つ、その方から聞いたのは、この生涯学習センターに公民館を残すに当たって、すごくご尽力したのがその館長さんなんだそうです。それは非常にありがたかったことで、よかったことなのですが、私がちよつと考えたのは、やっぱり小金井市のこれからも含めてなんですけれども、もうちよつと市民力でそういういい形に持っていくということも、多分かなり能力のある館長さんだったのでありがたかったんですけれども、もう少し市民力があつたほうがいいのかという感じで感想を持っております。

これからどうなっていくかわからないけど、小金井市もそれぞれが市民力を発揮して、うまくいろいろな考え方を共有していけたらというふうに思いました。すみません。

宮澤委員 ちよつと1つよろしいですか。私が聞き漏らしたのかも知れませんが、有料化で今500円とおっしゃいましたけれども、これは1日ですか。時間帯でしょうか。

山田委員 1日を午前、午後、それから夜間と分けているんです。それで、多分3時間ぐらいだと思います。

小島委員 3時間ですか。はい。

山田委員 それで、今言った500円というのは音楽室の2の料金です。普通の我々がよく使う学習室みたいなものは大体700円とか、午前は安くて午後は高くなるんですね。

宮澤委員 時間が長いからということなのですか。

山田委員 ちょっとわからないですが。利用率が高いのかもしれないです。それから、ホールなどもあって、ホールは3,900円とか、そんな感じです。

宮澤委員 ありがとうございます。

山田委員 それで、さっき言われた震災のときの対応も、私が前に聞いた西東京市の場合も、西友を通らないと公民館に入れなから現場対応でやったということで、要するに現場の判断が問われるというような話があったと思います。

佐々木委員長 想定外だったということもありますしね。今度はもう想定外というのは許されないでしょうからね。それ、資料、後で事務局の方にコピーしていただいて、皆さんに一応配っていただけますか。

山田委員 これですか。

佐々木委員長 ええ、それ、せっかくもらってきた書類なので。次回、山田さんを選んでもらって、これは委員の皆さんが見たほうが良いと思う部分を、ちょっとコピーしていただけますか。

山田委員 はい。事務局においていきます。

佐々木委員長 またこれから生涯学習センターの議論でも参考になるかと思いますので。すみません。

それでは、そのほかにないでしょうか。はい、どうぞ。

亘理委員 すみません。今は報告事項のその他ですね。

佐々木委員長 その他です。はい。

亘理委員 はい。すみません。都公連の研修で青年学級に出て以来、とても関心を持っておりまして、この間、7月8日に本館の「みんなの会」を見学させていただきました。そういうときは、本当は事務局に許可をいただくべきだったのかもしれませんが、申し訳ありません。ボランティアの方が親しくさせてくださっている方だったので、見学させてとお願いしまして、久しぶりに出てまいりましたが、感じたことは、やはり本当に人数が多くて、この方々が半分ぐらいだったら、ボランティアさんもご本人さんたちもどんなに気持ちももっと伸びやかかなという気がしました。

そして、スケジュールが、50分ぐらいずつダンス、私が行ったときはダンスと絵画なのですが、ダンスも一緒にしましたら、くたくたになって、これからまた絵画の勉強をなさるんだなということで、ボランティアさんも結構体力の要る仕事だなと思いました。

やはり問題点は、人数が多くなっていること、それから、ボランティアさんがやっぱり年をとってきている。お若い方がその日は2人いたんですけれども、大変高齢化しているという感じは否めません。

都公連の研修会の際に、町田市さんでしたか、お年寄りはこの会に入るのよというのを1つ設けて、スムーズに皆さんがそっちに流れていくてくれているということを聞いたんですけれども、もう本当にそうい

う検討に入る時期なんじゃないかなと思いました。それはどこですか、やはり公運審でこうして考えていくのか、そういうことも含めて何かしなければいけない時期に来ているんじゃないかと思いました。

以上です。

佐々木委員長 ご意見等、何かありますか。じゃあ、その件についてもまた今後話をしていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。
それでは、よろしいでしょうか。

2 審議事項

(1) 公民館事業の計画について

佐々木委員長 それでは、審議事項のほうに入らせていただきます。公民館事業の計画について、よろしくをお願いします。

渡辺事業係長 お配りした資料に一覧表を用意しましたので、審議のほうをよろしくをお願いします。

それから、1点だけちょっと説明をさせていただけたらと思うんですけども、「市民がつくる自主講座」について、もし応募が多かった場合には、ちょっとお時間をとって審議していただいてというお話をさせていただいたんですけども、こちらについては全部の応募された団体がやっていただけることになりましたので、ここでどの団体を落としてということにはなりませんので、その報告をさせていただけたらと思います。

ただ、全体としてはちょっと回数を減らしていただいたということはあるんですけども、基本的に全部の団体が実施していただけることになりましたということで、よろしくお願ひいたします。

お手元の一覧表を参考にさせていただけたらと思います。

以上です。

佐々木委員長 ありがとうございます。ご覧いただいて、いかがでしょうか。よろしいですか。どうぞ。

小島委員 1つよろしいですか。最後の東分館の男女共同参画講座、女のDIY講座ですけど、この難しい名前だと何か行きにくくて、それで、講師のところを見たら、稲葉泰子さんというそば打ち名人として、何回かお呼びしている方もいらして、何かこれ、2つ違う講師が来てるのに講座名がこれで、これはどうなってるのかなと思うんですけど。

佐々木委員長 そば打ちとDIYと2つ入っていて、この名前はということですね。

神島委員 何の略なんでございましょう。

佐々木委員長 日曜大工みたいなことですか。

山田委員 自分でやるということです。Do It Yourself。

松下主事 できることは自分でやりましょうということで、女性が男性に頼りがちな電球の交換とか、ちょっとした大工仕事を自分たちでやれるようにしましょうということを考えて、DIYという講座をつくっております。

佐々木委員長 そうですか。そば打ちはどう関係するのですか。

松下主事 今回は、基本的にDIYで調味料入れを皆さんにつくってもらおうんですけども。

小島委員 調味料入れね。

松下主事 はい。その延長で、調味料入れをちょっと使いつつ、そばも打てれ

ばということ。

佐々木委員長
松下主事
佐々木委員長
小島委員
宮澤委員
小島委員

D I Yが中心で、そばもありますよみたいな、お得な感じで。

はい。そう考えていただければ。

そうですか。

名前で引いてしまう人もいるかもしれません。

そうね。何だろうって、まず思いますね。

名前って結構大事だなというふうには思っております。これだと、一般的に何だろうみたいな感じですね。わかりづらいと思いますね。それから、男女共同参画講座と書かれると、引く人多いらしいんですよ。

松下主事

そうですね。男女共同参画というのはちょっとうたうかどわかかわからないんですけど、D I Yというのとはわかりづらければ、検討します。

大関公民館長

すみません。ただ、これはここに載っているだけで、細かな説明はちゃんとホームページとかポスターだとかには、先ほど言った女性にできることということで、一応載せてはいますので、そこを見ていただければ。これだけ見ってしまうとそう感じてしまうのかもしれないですけども。

小島委員
佐々木委員長
小島委員
佐々木委員長
藤井副委員長

わかりました。ありがとうございます。

この言葉、何だろうということに興味引くかもしれないですしね。

逆にね。

それでは、いい企画にさせていただきたいと思います。

それと、本町分館とか貫井南分館のスポーツ関係の講座がやっぱり出てきたのは、この前、来年の国体のPRのためにできることを、公民館は公民館でやろうよといった中身がこういうふうにしっかり分館で出てきたことは、僕はいいことだと思うんです。

佐々木委員長
藤井副委員長
佐々木委員長

それぞれの分館で自覚的に考え始めているということですね。

そうですね。はい。

よろしいですか。

(2) 青少年の科学の祭典について

佐々木委員長

それでは、いよいよ青少年の科学の祭典に入らせていただきたいと思えます。

山田委員のほうから、出展内容調査書というのをつくっていただいて、何をやるかということで、前回から2ページ、1枚目の裏のほうで、「昔遊びの科学」というタイトルで、糸電話、篠笛、しょうのう船、ぽんぽん船、ピンホールカメラ、こういったものを挙げていただいておりますけれども。

山田委員

一応これを、調査票を出す前に2、3人の方にはちょっと送らなかったんですけども、そのほかの方には大体送って、ご意見を伺ったんですけども、特になかったのものでそのまま出しました。

ただ、一番最後のほうで、小金井の社会教育3団体で出しますという説明をちょっとつけ加えるようにということがあったので、ここの最後の部分だけ書き加えて、あとは皆さんにお返ししたとおりに出しております。

佐々木委員長
山田委員

やれそうなものってどれになりますかね。

これが糸電話ですね。これは簡単なのでできると思います。これも資料が前もって配付されていたのですが、ここから分ければ3人でも4人

でも話せるので。

小島委員 資料ありますね。

山田委員 ええ。これが簡単で、小さな子にもありかなと思ひまして。最近、こんなことやらないだろうと思うので。

小島委員 さっきやりましたら、とてもよく聞こえました。

佐々木委員長 そうですか。

小島委員 はい。

山田委員 それで、あと、ピンホールカメラというのは、ここにピンホールをあけて裏に写るといふ感じなんですけれども、ちょっとこれ暗くて、もうちょっと透明な紙があるといふです。これは障子紙を張っちゃったので、それだと暗いので、もうちょっと実験してみます。

佐々木委員長 それは、写真、写るんですか。

山田委員 写真といふか、ここに画像が写るだけで、印画紙を置かない限り写真にはならないので、ここから入ったのが、ここに写ったのが見れるだけです。

佐々木委員長 カメラの原理をそれで確認する。

山田委員 はい。光は直進するからこうなるんだよという。というのを。

佐々木委員長 そうですね。なるほど、なるほど。

山田委員 これで写真を撮っている人もいますよ。芸術家で、ずっと露光時間を多くして撮れば撮れるので、そういう写真で芸術的な写真を撮る方はいます。

それから、笛もできればやれるので、これももうちょっと実験してみたいと思ひます。

それから、例の、この前、宮澤さんからいただいたのでぼんぼん船というやつをやろうと思ひたんですけれども、火気厳禁と書いてあつて、それで。ただ、後から注意事項みたいなものが来たんですけれども、それを見ると、許可を取ればろうそくとか線香ぐらいいいみたいな感じなので、もうちょっと話はしてみます。あれがあると、たらいに入れて、あの船はかじがついてないんですけれども。

小島委員 うん、ついてなかったです。

山田委員 ついてないですよ。だけど、あれ、ずっと動かすとぐるぐる、ぐるぐる、たらいが丸いからずっと回るので、ああいう動くものはちょっと興味を引くかと思ひのですが。だから、ろうそくぐらい使わせてよといふことで話をしてみても、できれば、といふことで、大体考へているんですけれども。

佐々木委員長 ※電話とピンホールカメラと。

山田委員 篠笛ができれば。

佐々木委員長 篠笛ができれば。あと。

山田委員 あと、船遊びですね。

佐々木委員長 船遊びですね。しょうのう船かぼんぼん船ですね。

山田委員 ぼんぼん船は、だから、ろうそくを使つていいですかとちょっと聞いてみます。

佐々木委員長 そうですか。

神島委員 質問してもいいですか。

佐々木委員長 はい、どうぞ。

神島委員 これは私、国際ソロプチミストのほうからもらつてきたチラシなので

すが、これだとどこのコーナーに入るんですか、私どものほうは。

山田委員 あ、それは見てないですね。どこにあったんですか。

神島委員 場所がわからないと、ちょっと行けない。糸電話ではないですよ。

山田委員 糸電話で出てるかもわからない。

神島委員 やってみよう、試してわかる理科実験、これですか。何かやってみようとか、糸電話がないように私ちょっと見てきたんですが。

山田委員 そうですか。これは私も見てないのですが、あ、ここ、「昔遊びの科学」というところがありますよね。

神島委員 いろいろなほかのことをやるので、名称を変えてあるかもしれないですが。

山田委員 ここに書いたんだから、これが出るという話でしょう。昔遊びの科学。

大津委員 私もどこか一覧表で見た記憶があります。「昔遊びの科学」というタイトルで。

佐々木委員長 一応申し込んであるから、ないということはないと思います。

山田委員 これが昔遊び、そうそうそう。今言ったのは「昔遊びの科学」と書いてある、それがそうです。

佐々木委員長 そうですか。じゃあ、よかったです。

神島委員 ありました。よかったですね。(笑) 行ったらコーナーがなかったではね。

佐々木委員長 そうですね。それは最悪。

山田委員 図書館とかは何をやるかわかんないんですけども、社会教育委員は「不思議なピラミッド」って言ってました。

神島委員 あと、次、続けてください、先生。

佐々木委員長 じゃあ、まず確認されたということで、一安心ですね。

山田委員 それで、いいですか。

佐々木委員長 はい、どうぞ、どうぞ。

山田委員 それで、これの2枚目についている中高生のボランティア活用をお願いというのが来たのですが、これ使ってくださいということで、単に使っ放しではなくて、中高生からもとてもよい経験ができた、勉強になった、来年もやりたいとの声があり、中高生が教えることの楽しさ、難しさを経験することのできるよい機会となっていますということで、だから、ただの使っ放しではなくて、勉強というか、いろいろな体験ができるようにちゃんとボランティアの人を使ってくださいということだと思っんですけども、ただ、私たちのところは一応ボランティア4人で希望しているんですけども、どうですか。もっと、このぐらい、どうですか。5人要るか、4人要るか、6人要るか。

藤井副委員長 去年どのくらい見えました。去年、いましたね、結構。

佐々木委員長 去年、結構いましたよね。

山田委員 去年は5人ぐらいいました。

藤井副委員長 いましたよね。

小島委員 去年多かったですよ。5、6名、科技高でしたよね、あれね。

山田委員 そうです。じゃあ、もう1人ぐらい要望にこたえて増やすかどうかぐらいですが、要りますか。

藤井副委員長 ある意味、彼らが多いほど、おじさん、おばさんがおるよりも、小さい子供からしたら、そういう高校生の方が親しみやすく、質問しやすい、そういう効果もあるんじゃないかな。

山田委員 だから、こういうボランティア活動のお願いというお達しが来たから

には、増やすほうが簡単に受け入れられると思うんです。

小島委員

そうですね。

山田委員

あと1人ぐらい増やして。

佐々木委員長

そうですね。じゃあ、5人ぐらいでお願いして。

藤井副委員長

連絡がない場合でも、強制的につけますよと書いてありますよね。

佐々木委員長

そうですか。

藤井副委員長

ここ。ご連絡がない場合、ボランティアを配置すると。

佐々木委員長

そうか、そうか。集めてあるから、受け入れてくださいということなんです。

神島委員

山田委員、人数を把握しておかないと、お弁当の用意とかございますので、やっぱりこちらから何人参加しますということできちんと登録しないとと思うんですよ。お昼の用意がありますので。お弁当が出ましたでしょう、去年。

山田委員

ええ。ボランティアはうちは関係なくて、ボランティアは向こうで用意するから、お弁当は。こっちのスタッフの分だと思います。

神島委員

ええ。

山田委員

うちのほうのスタッフの人数ですね。

神島委員

そうそう。だから、登録しておかないと。それで、お弁当の用意をしていただける。

佐々木委員長

あ、我々のほうも弁当ですか。

山田委員

我々も、そうそう。

小島委員

毎年出ます。

佐々木委員長

あ、そうですか。

神島委員

立川委員が配ってくれます。

佐々木委員長

ああ、そうですか。立川委員が、商工会のスタッフとして配ってくれるのですね。

山田委員

お弁当が要る人は何人でしょうか。

佐々木委員長

じゃあ、当日参加できそうな方は。

(全員挙手)

神島委員

みんな出席じゃないですか。

佐々木委員長

立川委員は別口でとなると、じゃあ、8人ですか。

山田委員

8人でお願いしておきますか。

佐々木委員長

ええ。では、お弁当を楽しみに。

山田委員

あと、続けて言いますと、9月8日、前日ですね。今そこに配ってないんですけども、前日、シンポジウムと会場設営があるんですけども、各ブースより最低1、2名の参加をお願いしますと来ています。これ、最近来たんですよ。まだ配れなくて。ミニシンポジウムというのがあって、「子供たちに科学の楽しさを！ー地域の力で作る科学の祭典ー」ということで、学芸大理科教員高度支援センター長、長谷川正さんという方が講演をされるということです。

その後に会場設営があって、準備の方法と注意というのがあるので、こういうのには出ておかないといけないと思うんですけども、事故防止と緊急時の対応について、準備作業、机、いすの移動ということで、8日の日に、午後1時からあるのですが。

佐々木委員長

1時からですか。

山田委員

はい。ミニシンポジウムが1時からで、会場設営は1時45分から。

佐々木委員長 ミニシンポが1時からで、1時45分から会場設営。
 山田委員 4時までですね、会場設営。そのときに注意事項とかが話されるわけ
 なんですけども。
 佐々木委員長 このときはそんなに人数は要らないですよ。
 山田委員 各ブースより最低1、2名。
 佐々木委員長 最低1、2名ですね。私、行きますけども。山田さんにもお願いして
 いいですか。
 山田委員 はい。それで、場所は講義棟のNの410って、どこかわかんないで
 すけど。
 佐々木委員長 Nの410は、行けば掲示してあります。
 山田委員 そうですか。それから、当日、9月9日の当日は、開会式が9時半から
 10時、正門前広場で開会式があります。大会会長あいさつ、小金井
 市長、学校の学長のあいさつ、村松泰子先生。それから、テープカット。
 ファンファーレ及び演奏というのが小金井市立小金井第二中学校、ウイ
 ンドアンサンブル。それから、10時から開場で、各ブースで展示が始
 まると。終了が16時30分。会場片づけが16時30分から17時3
 0分。高校生のボランティアは17時まで。それから、反省会が17時
 30分から18時、会場はNの410。
 佐々木委員長 それは、皆さんコピーか何かもらったほうがいいですね。それ、今コ
 ピーしてください。
 神島委員 そう。それ、一覧表をまずいただくのと、それから、申し上げるんだ
 けど、例えば集合場所をどこにして、何時に集合して、前日は諸準備を
 どうするとか、具体的なことを決めていただかないと、8人がただポー
 ッと行くだけなんかじゃいけませんので、まずその用紙を皆さんにお配
 りいただくのと、それから、きちんとその辺を煮詰めていただいて。
 佐々木委員長 そうですね。
 神島委員 そして、当日に向かうというふうにしてくださいませ。
 山崎庶務係長 お預かりして、今コピーしてまいります。
 山田委員 ちょっと赤線、赤丸とかつけちゃってますけども。
 佐々木委員長 いいです、いいです。前日は、そうすると準備は物を運ぶといっても、
 展示、掲示ですか。
 山田委員 会場設営です。机を並べたりする。
 小島委員 去年は朝早く大橋委員長が行って、ポスター6枚ぐらい張っていたら
 しいですけど。
 佐々木委員長 あれだったら、朝でもいいですね。前日じゃなくても。
 小島委員 ええ。大橋委員長は朝張ったそうです。
 佐々木委員長 去年のやつ、藤井さんをお願いしていいですか。
 藤井副委員長 去年の経験で言えば、今、山田さんおっしゃった土曜日の件、シンポ
 ジウムも、僕、行きました。会場設営というのは、ポスター6枚を張り
 ました。それで、その前に三者の教室がいわゆる学校形式になっていた
 ので、テーブルといすを整理して、広くつくりました。
 だから、去年と同じことをやるなら、シンポジウムに出させていただくの
 は皆さんの自由、自由というか時間があればいいんですけども、13
 時45分の会場設営のときに、会場自体が学校教室のままになっている
 ので、図書館と僕らと、それから社会教育委員の方々のスペースをとる
 ようにして、机とあれを窓際に置くとか、これ、三者のときにだれか仕

切らないと、ちょっと難しいと去年思ったんです。こういうところで、こういうテーブルが学校形式で並んでいるわけです。だから、これを窓際へ持っていこうとか、廊下へ出してよかったのかな、そういう三者で、要はだれかが仕切ってくれないと、三者で我々がやったらおかしくなると思うんです。

それと、壁が、ガラス窓が1面と壁が3面あるので、どこをどの講師が使われるかということもある程度決めておいたほうが、去年は黒板側を公運審が使って、後ろ側が図書館で、真ん中に社会教育委員と。そういう形で、それぞれが使うテーブルをそこへ残して会場準備をやったんですよね。ある意味、去年と同じでいいよというふうなら、別に仕切らなくても、去年と同じような形でやりましょうという形でいいとは思いますが。

佐々木委員長
藤井副委員長

それがいいんじゃないですか。
多分、会場自体同じところなんでしょうね。これ、先生、410というのは。

佐々木委員長
藤井副委員長
山田委員

これ、ミニシンの会場ですよ。
うん。だから。
反省会もそこら辺でやるから同じだと思うんです。終わった後も、そこで反省会を。

藤井副委員長

ずっと、どう言ったらええんかね。正面入り口入って、ずっと入って行って、左、西側のほうですか。

佐々木委員長

正面から入って、こっち側に鉄筋むき出しの講義棟があるんですよ。南側がS、SouthのS棟で、北側がNorthのN棟です。北側の4階なんです。そこにSとかNとか書いてありますので。

藤井副委員長
佐々木委員長
神島委員

去年と一緒にですね、大体。
同じです。
受付もありますし、案内もありますので大丈夫だと思うんですよ。だから、正面の正門から入って左側の建物の3階ですよ。

佐々木委員長
神島委員

4階です。
4階に行かれば、そこにこういう昔の遊びとか書いたコーナーがもう張ってあると思うので、そこへ行けばいい。

佐々木委員長
山田委員
佐々木委員長

これ、我々の会場がどこかはまだわからないんですよ。
そうですね。

山田委員
神島委員

決められた会場に分かれて、会場づくり。
そうしたら、打ち合わせをもう一度ぐらいやっておいたほうがよろしいですかね。当日、あとはもうぶっつけ本番、当日というのも、いささか心もとない。

小島委員
神島委員

そう。1回は集まった方がいいですね。
やっぱり大人のすることなので、やっぱり対応はきちんとしておかないといけないと思うんですよ。対象は子供であっても、実施する者は大人ですので、それなりの諸準備をしたいと思います。

小島委員
宮澤委員

確かに1回集まる必要があると思う。
そうですね。試してみないといけないしね、作品もね。

小島委員 そうそう。それから。

神島委員 糸電話ですか。これもつくるならこうするとかね。

宮澤委員 ちょっと手順とかね。

神島委員 打ち合わせを1回したいと思います。

佐々木委員長 じゃあ、前日がいいんじゃないですか。

山田委員 だから、何人か集めてちょっと実験してみようかなとは思ったんですけど。

小島委員 それで、さっき山田さんがよく声の聞こえる糸電話をつくってくれたんですが、これは障子紙と紙パックでつくられたんですよ。一応、私、資料を今回コピーで配らせていただいたんですけど、紙コップも2つづくり方があるんです。こっちのほうに出ているのと、この一番裏に出ている方法と2つあるんですね。紙コップを使わないなら使わないで、山田さんのやり方でやるか、その辺も詰めておかないと。

山田委員 紙コップは多分硬いので振動しにくいので、だから、聞こえは少し落ちるかなとは思っています。

佐々木委員長 あれは何ですか。

山田委員 障子紙。

佐々木委員長 障子紙。

山田委員 昔はあれで。

藤井副委員長 周りのほうですよ。

小島委員 紙パック。

山田委員 周りのほうは、これ。

小島委員 牛乳とかが入ってる紙パックですか。

山田委員 何でもいいんですけども、要するに厚紙。厚紙を丸めればいい。

佐々木委員長 問題は、その震えるところが障子紙のほうがいいと。

山田委員 そうそう、そうそう。そのほうが振動しやすい。硬いので、剛性があるので。実験してみればいい。

佐々木委員長 とりあえず、じゃあ、物をだれが準備するかということがまず1つですね。

山田委員 そうですね。

宮澤委員 そういう細かいことがね。

神島委員 そう。1回打ち合わせしてつくってみたり、実験しておかないと。

山田委員 じゃあ、1週間ぐらい前にやって、そうすると、1週間あったら修正もきくから。

宮澤委員 そうですね。

山田委員 直前は修正がきかない。

佐々木委員長 はい。

神島委員 学芸大学で教室が1部屋あいてたら、一緒に。場所がてら見に行ったり。

宮澤委員 それこそ公民館を利用してやられるのがいいかも。

佐々木委員長 夏休み中だから、教室はちょっと難しいと思いますけど、部屋はどこか確保できると思います。

神島委員 そうですよ。

佐々木委員長 ええ。

神島委員 そうしたら、学芸大に集まりましょう。

佐々木委員長 いいですよ。学芸大でもいいし。

神島委員 お願いします、佐々木先生に。

神島委員 じゃあ、決まったら連絡網、お役所に連絡していただければ山崎さんのほうから流していただくとか。

山田委員 メールがある人はメールでいただければ。

佐々木委員長 やるなら、今決めておいたほうがいいでしょうね。

山田委員 大体そこら辺。

神島委員 じゃあ、電話で。

小島委員 皆さんのご都合があると。

佐々木委員長 電話というか、今、日程決めたほうがいいですよ。

山田委員 はい。

神島委員 それで、全員行かなくても、要領さえわかれば、そこで大人だから教えてもらえばいいわけだから、要は用意するものとか、はさみはだれが持ってくるとか、それから、こうやるとか、そういうことと、あとはつくり方の要領みたいなものを。

山田委員 要領は私、書きます。

神島委員 だから、先生にお部屋をとっていただければあとは集まれる人が。

小島委員 山田さんが要領は書いてくれるそうです。

山田委員 要領というか、要するに科学だから、原理を書かなきゃいけないので。

小島委員 そうそう、原理も書かなきゃいけない。

藤井副委員長 子供用にもね。

山田委員 ええ。

大津委員 だけじゃなくて、こういうつくり方というか、やり方の掲示物とかは必要ないんですか。

山田委員 掲示物をつくるのは大変なんだ。

小島委員 テーブルがあるんですね。そこに書いたのを大きな字で張っておけば大丈夫で、壁はポスターがあるんです。

佐々木委員長 結局、やることというのは。

山田委員 公民館でもいいですよ。こちらだって。

佐々木委員長 大学でもいいんですけど。

小島委員 うん。公民館でも、空き部屋があれば。

佐々木委員長 そんなに前に集まって準備するほどでもないかなとは思いますが。例えば前日のそのときに一たん持ち寄って集まってみて。

山田委員 前日はちょっと。

佐々木委員長 厳しいですか。

山田委員 ええ。何かあった場合にね。

佐々木委員長 そうですか。じゃあ。

藤井副委員長 そうか。手直しがきかないんだ。

佐々木委員長 手直しきかないですか。じゃあ。

山田委員 1週間ぐらい前。

佐々木委員長 1週間ぐらい前ですね。

神島委員 ね。みんな、夏終わりごろなら。30か31ぐらいはどうですか。

佐々木委員長 9月3日月曜の夕方3時以降だとあいてるんですが、どうでしょう。大丈夫ですか。

神島委員 9月3日でいいです。

小島委員 9月3日、はい。

山田委員 はい。

神島委員 じゃあ、3時から5時ということ。
 佐々木委員長 はい。
 神島委員 場所を教えてください。
 佐々木委員長 はい。場所は、私、じゃあ、大学で確保しておきますので。ちょっとまだわからないのですが。私の研究室のある階で、総合教育科学系・人文社会科学系研究棟1号館というのがあるんですけども。
 神島委員 1号館の。
 佐々木委員長 通称、サンシャインというんですけど。
 神島委員 サンシャイン。
 小島委員 は？（笑）
 佐々木委員長 9階建ての建物ですので。正面から入って、一番高い9階建ての建物。
 神島委員 9階の。
 佐々木委員長 ええ。9階建ての建物なんですけど、ただ、入るのが正面から入れない。裏側にこう回って、その9階建ての建物の5階です。
 神島委員 5階ね。はい。
 佐々木委員長 ええ。わからないときは守衛さんのところで佐々木幸寿の研究室はどこだと聞いていただければ、教えてください。私の研究室に来ていただいて、その階に部屋用意しておきますので。
 神島委員 はい。
 小島委員 はい。予算なんですけれども、材料費、事前に予算が出るのか。
 山田委員 いや、事前には出ないです。
 小島委員 領収書で精算。
 山田委員 1万円を上限に補助する予定でいますが、協賛金の集まりぐあいによっては上限額が下がる可能性があります。
 山田委員 去年もそうですね。1万円。後払いです。
 小島委員 手づくりだね。でも、紙コップは安いけどね。100円ショップでもこんなにも買えるから。
 山田委員 後でやってみますけど、振動しにくい。
 小島委員 振動しにくいですか。
 山田委員 ちょっとやってみます。それと、当日、緊急時の連絡のために、どなたか携帯電話の番号を登録してくださいとあるんですけども、私、貧乏なので携帯電話ないのですが。
 佐々木委員長 じゃあ、私の携帯番号でどうぞ。
 山田委員 当日に緊急事態が発生した場合には、そこへ電話しますと言われてい
 ます。
 神島委員 先生の研究室に皆さんがいらっしゃらない場合は、何か緊急の必要が生じたら、私にご連絡いただければ私が伺ってもかまいません。学芸大学は近所で、うちの庭みたいなものですから。
 小島委員 すごい立地条件いいですね、神島さん。
 神島委員 おかげさまで。紙コップとか用意しておきますよ。たくさんあるので、私。例えば何個ぐらい要りますか。何百人は、来ないですよ。
 山田委員 両方併用して使用しても別にいいけど。
 小島委員 併用でもいいですよ。どっちみち子供が持って帰っていいやつですもんね。
 神島委員 そっちの予算で用意できればですね。
 小島委員 そうですね。

山田委員 厚紙を買うので、その分はその値段じゃないと。

小島委員 そうですね。これ、鉛筆の先でも紙コップだと穴あけられるんですよ。

山田委員 そうはいかない。

佐々木委員長 文房具類は大学にもありますので、はさみとかセロハンテープとか、その辺は、研究室から持ちよれば、その場ですぐ使えると思います。

山田委員 一応これでないとだめなんです。

神島委員 千枚通しね。

佐々木委員長 千枚通しは欲しいな。

山田委員 これは、多分100円ショップでもあると思います。

小島委員 あと、想定質問みたいなものを。当日、9月3日でもいいかと思うんですが、子供たちがすごい鋭い質問とか絶対来るんですよ。それで、手で押さえると音が伝わらないのに、どうして切れた糸をつないだら音が伝わるのとか、何か来そうな気がして。みんなでシミュレーションしとかないといけないかなと。

山田委員 去年の経験だと、質問なんか来ない。

小島委員 来ないですか。 あら、最近の子ってあんまり好奇心ないのかしらね。

藤井副委員長 自分でやってみたいわけですよ、子供ってね。

山田委員 ひたすら、ものづくりに集中すると思います。去年も、説明の紙も置いたんですけど、それほど持っていく人もいなかった。

小島委員 例えば糸だとふたまたに分かれるけどね。

山田委員 4またでもいいんですけどね。

小島委員 それから、一番最後のこのページに、交差するのと、それから、ふたまたに分かれるのと、耳と口と両方つけるのとか、ここに、この一番最後のページに出てる。

山田委員 あと、こっちにばねを入れればエコーがかかるというのがあります。

小島委員 そうですね。

山田委員 ちょっとそれもまだやってないので、やってみます。

佐々木委員長 そして、当日、9月3日に物を持ってくるのは山田委員にお願いしていいですか。あと、小島委員も何か。

小島委員 神島さん、紙コップいっぱいあるそうです。

佐々木委員長 神島さん、お願いしてよろしいですか。

神島委員 私、紙コップ、差し上げますから。

山田委員 さすが。あと、マッチ棒のこういうやつが要るぐらいですから。

佐々木委員長 あとはまた、たらいか何かが必要なんですか。

山田委員 たらいは要りますね。船をやるんだったら。

佐々木委員長 たらいは、どなたかお持ちの方は。

宮澤委員 穴あけちゃったから使えないんです。

藤井副委員長 子供のプールでいいんでしょう。

山田委員 プールよりもたらいのほうがいいかな。プールはちょっと滑りにくいと思うので。小っちゃい、置く場所はそんなにないので、このくらいの。それにプールだと水入れるの大変ですよ。水って重たいので。うちにはあるのですが、運んでいくのが大変なだけです。

佐々木委員長 そうですか。たらいって予算って幾らぐらいですか。

山田委員 1万円。

佐々木委員長 1万円。

山田委員 たらい、買うと高いんですよ。

佐々木委員長 たらい、高いですかね。どなたかお持ちでしたら。

山田委員 神島さんのところへ事前に持って行って預かっていたら。

神島委員 私のところでみんなお預かりしてもいいですけど。例えばコップ、はさみ、糸、セロテープ。先生に、学校にあるものは貸していただけるのですよね。

佐々木委員長 はい、セロテープあります。はさみあります、3、4本。

山田委員 はさみなら、うちにも5、6本あるので、必要なら持っていきます。

神島委員 8人いるわけだから。みんな、だって大勢ドーンと来るから、一遍に20人ぐらい入るんですよ。20人を処理したら、次並んでるんですよ、子供って。

山田委員 でも、この机に座れる子だけですから。

神島委員 また次の子が並んで、どんどん入れないと。

山田委員 いや、大丈夫です。去年の経験で、それほどは来なかった。

神島委員 いや、だけど興味があります、多分今回の。

小島委員 そうね。

神島委員 去年のものよりも、多分、お友達とつくって楽しめるというのは。

小島委員 そうなのね。おっしゃるとおりだと思う。

神島委員 だから、全然違いますよ。

小島委員 うん。今回は作りますからね。去年は、できている道具を使ってこうやっていたから。

神島委員 そうです。つくるといのは大変なことですよ。

山田委員 それに、ボランティアの子供も対応できる人数決まってるから。

佐々木委員長 そうすると、そんなにはさみとか必要ですか。交代で使えば十分ですよ。3つか4つぐらいはあれば。

山田委員 でも、これは1個しかないです。あと、きりは3本ぐらいです。

宮澤委員 それは私も3本ぐらい持っていますので。

佐々木委員長 そうですか。じゃあ、それをお願いします。

神島委員 それで、せっかくこの資料を準備されたので、増し刷りをして、子供たちにも配りましょう。これね、山田さんが作ってくださったのですか。

山田委員 全然違います。これは本のコピーなので。

神島委員 コピーでも、これも、置いておけば、もし興味のある子は持っていきますよね。

佐々木委員長 著作権とか大丈夫なんですか。

小島委員 いや、難しいですね。

山田委員 だから、やっぱりちょっと抜粋してつくります。

小島委員 一応、これはつくり直したほうがベター。

山田委員 だから、あのポスターもつくり直したんです。藤井さんの。著作権の問題があるので。

神島委員 あるんですよ。

小島委員 本の場合は必ずどこから引用してしなきゃならないから。

神島委員 そうですね、作者の許可を得ないといけないから。

小島委員 だから、ここから抜粋して、何か簡単に山田さんに書いてもらうようにすればいいかと思えます。

神島委員 そうそう。もっと簡単なものでも結構です。

小島委員 それで、机のところに置いておけるようにすれば。

神島委員 持って帰りたい人は持って帰る。
 小島委員 そうですね。
 山田委員 去年、メールで送った人はいます。
 小島委員 あ、そうなんですか。
 山田委員 メールがある人には送ったり。そんなところですよ。
 佐々木委員長 よろしいですか。あとは。
 山田委員 とりあえずメールがある人には、途中でも何かメールします。
 小島委員 ありがたいです。
 佐々木委員長 たらいはどうしましょう。
 山田委員 たらい、だから、神島さんのところに持って行って、置かしていただく。
 佐々木委員長 神島さんのところありますか。
 神島委員 いろいろ。それに、例えばやってる作業中のお茶とか、先生のところにポットとかあればね。
 佐々木委員長 ポットはありますけど。
 神島委員 そうしたら、ちょっと休憩にコーヒー飲むとか。
 佐々木委員長 それは私の研究室使っていただいて結構ですが。
 小島委員 そうしたら、それを私たちでお茶酌みをして。
 神島委員 紙コップもいくらでもあるからね。いくらでもね。
 佐々木委員長 ただ、私の研究室はすごく汚いんですよ。物置じゃないかと言われてる。
 神島委員 いいですよ。きれい、汚い、関係ない。
 小島委員 それはできる教授のお部屋です。私もさんざん経験してますので。
 佐々木委員長 もう本当にひどい部屋なので。多分、崩れてきます。
 小島委員 それはできる証拠です。
 佐々木委員長 いえいえ、とんでもない。
 神島委員 そうですね。そういうちょっと休憩できるような、大勢でかかわっても、かわりばんこに休むとかということも大事です。
 佐々木委員長 はい。
 小島委員 何となく形になってきましたね。
 佐々木委員長 いいですか。
 小島委員 ええ。
 佐々木委員長 じゃあ、それぞれ今言ったものを持って、9月3日の3時に私の研究室のほうに来ていただきたいと思います。
 小島委員 はい、
 神島委員 はい。
 亘理委員 ちょっと都合が悪いのですが、すみません。
 佐々木委員長 そうですか。どうぞ、どうぞ。

3 その他

(1) 第22期企画実行委員の新規委嘱について(報告事項追加)

渡辺事業係長 すみません、委員長、ちょっと1点だけよろしいですか。
 佐々木委員長 はい、どうぞ。
 渡辺事業係長 お配りした資料の中に企画実行委員の名簿をご覧ください。今月で任期が終わりまして。
 小島委員 そうだ。任期満了ですね。

渡辺事業係長　　今月7月21日からが任期となります第22期企画実行委員の名簿を配付しております。ご覧いただけますか。今後の予定なんですけれども、8月7日にそれぞれの館で委嘱状の伝達を行います。ご紹介のほうは、月刊こうみんかん9月、10月号に刊を分けて皆さんの紹介の記事を掲載予定ですので、お読みいただけたらと思います。以上です。

佐々木委員長　　はい。

宮澤委員　　ちょっとよろしいですか。1つ。

佐々木委員長　　はい、どうぞ。

宮澤委員　　貫井南分館なのですが、大体6人なんですけど、今メンバーが上がっているのは5人なんですけど、追加はされているんでしょうか。市報とか何かで、よく追加が出ますよね。このまま5人でいかれるのか。

渡辺事業係長　　追加は、今のところ予定は考えていないんですけれども、また。

宮澤委員　　じゃあ、5人でいかれるということですね。

渡辺事業係長　　そうです。皆さんのほうでどうしてもというお話でしたら、また追加することはできますので。

宮澤委員　　そうですか。一応5人でスタートということですね。

渡辺事業係長　　そうです。

宮澤委員　　はい、わかりました。

佐々木委員長　　よろしいでしょうか。その他、特にないですか。

　　　　　　　　すみません、協力いただいてありがとうございます。ちょうど11時に終わりました。

小島委員　　よかったですね。

佐々木委員長　　どうもありがとうございました。